

学校だより

社会や地域に関心がもてる大人になるために

秋は、スポーツや文化面、そしてボランティア活動等、地域主催の行事が多数行われています。本地域でも、入曽地区体育祭、ふれあいコンサート、各地区のお祭り、そして伝統行事である綱引き大会等、改めて、地域の皆様方の生徒たちに対する温かいご支援に感謝いたしております。しかしながら、全国学力・学習調査の生徒質問紙によると、今住んでいる地域の行事への参加や地域社会をよくするために何をすべきかを考える項目では、共に全国の数値を下回っている結果となっています。教育は、学校だけでは完結できず、子供たちの人格形成は、基盤となる家庭とそれを支える地域とが補完し合って成立するものです。やがては、地域を巣立ち、そして、またこの地域に戻り、地域の良さを伝承していく子供たちを育てる上でも、学校と地域との連携は大切にしていきたいと考えます。また、昨今、主権者教育の重要性も言われ始め、様々な社会課題について、できるだけ多くの合意を形成し、今とこれからの社会をつくるために、若者が「知り・考え・意見を持ち・論じ・決める」ことを学んでいく教育の必要性もいわれています。



さて、若者の活字離れが言われていますが、過日、ある新聞のコラムに家庭での新聞の購読率が減ってきたということと、今や子供たちにとって新聞は身近な存在ではなくなってきており、一方で、新聞は子供たちに新鮮なものとして受け止められているようだということが書かれてありました。本校の生徒においても、調査の結果、新聞に目を通す生徒が少数であることが明らかにされています。

急速に進むネット社会の中で、瞬時に良い情報も悪い情報も入る世の中です。しかし、新聞は、活字を読むことで思考力や想像力が養われ、今の世の中に直接つながる「窓」であり、記事を読むことで社会への関心が寄せられる利点があります。来年度から実施される新学習指導要領（中学校は、令和3年）では、「主体的・対話的で深い学び」を掲げ、新聞の活用

を促していることから、授業等で新聞の活用が増えることが予想されます。情報の速報はネットメディアで知っても、深く学び、考える力には、新聞は欠かすことのない生きた教材ともなります。デジタル社会が進む中で、アナログのよさも見直したいものです。時には、親子で新聞を囲んで、社会のこと、地域のことについて語り合ってみたらどうでしょうか。

【全国学力・学習状況調査、生徒質問紙】

Q 新聞を読んでいますか

	本校	全国
ほぼ毎日読んでいる	1.3%	4.4%
週に1. 2回	7.3%	8.3%
ほとんど読まない	71.3%	71.3%

Q 地域の行事に参加していますか

参加している	13.7%	21.0%
参加していない	14.7%	23.2%